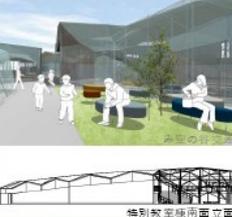
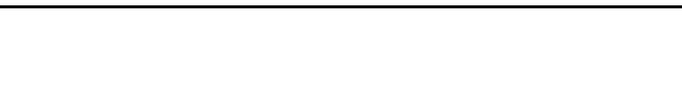
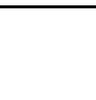


学生卒業設計制作NCF空間ディスプレイアワード受賞作品

受賞年	2024年	
受賞タイトル	奨励賞	
区分	Ⅱ. 生活ディスプレイデザイン	
フリガナ	ウタガワ サトコ	
制作者名	宇田川 智子	
フリガナ	キョウトジョシダイガク カセイガクブ セイカツウケイガク	
卒業時の大学 学部・学科	京都女子大学家政学部生活造形学科	
フリガナ	イノウエ エリコ	職名
推薦者名	井上えり子	家政学部 生活造形学科・教授
フリガナ	テンヲセンニ センヲワニ チイキニネザシタフリースクールノセツケイテイアン	
作品名	点を線に 線を輪に 地域に根差したフリースクールの設計提案	
概要	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>点を線に 線を輪に 地域に根差したフリースクールの設計提案</p>  <p>教室棟はスキップフロアにより、空間を分け、クラスごとの視線をずらすことで、集まりながら静かな空間をつくれた。さらに教室の中にデンやロフトを設け、1人で過ごしながらも、近くに誰かがいるという安心できる暖かい学びの場を設けた。</p> <p>千草小路</p>  <p>教室棟</p>  <p>特別教室棟</p>  <p>A-A断面図</p> <p>ガラス張りの施設が並ぶみ空小路は、地域の人が生徒を小路から見守り、交差点の広場では、生徒と地域の人々が集い、適度な距離感の交流が生まれる。</p> <p>み空小路</p>  <p>体育館</p>  <p>地域食堂</p>  <p>特別教室棟南立面図</p> <p>工房では生徒だけでなく、障害を持つ人のアート制作の場としても利用され、多様な人との交流の場となる。</p> <p>染柳小路</p>  <p>工房</p>  <p>図書館</p>  <p>オフィス</p>  <p>B-B断面図</p>  <p>図書館東立面図</p> </div> <div style="width: 45%;">  <p>敷地 敷地は京都市東山区の路地の一角とする。</p> <p>配置計画 住宅地である西側の路地と繋がるよう敷地内に3つの道（千草小路、み空小路、染柳小路）をつくり、生徒専用の道や地域の人も利用できる道など用途を分けた。</p> <p>施設は、生徒専用の教室棟や特別教室棟、地域の人も利用できる体育館やオフィス、障害を持つ人が利用できる工房やアートギャラリーなど多様な施設を配置した。また、敷地内だけでなく、住宅地の中にも寺子屋や地域食堂をつくり、地域の人と交流できる施設を設けた。</p> <p>コンセプト 孤独と戦う子どもたちが、路地を歩いていると、工房で誰かが制作に打ち込み、興味そうなおいがかすと思ったら、地域の人が食堂でご飯をつくっている。建物がぼつんと立っているだけでは、心細い。道で繋がっていると、お隣さんがいると安心できる。一人で家には心細い。同じ状況の子がいると思ったら安心できる。「点を線に線を輪に」個々の空間（点）を路地（線）で繋ぎ、その空間から心の繋がり（輪）が生まれる。</p>  </div> </div>	

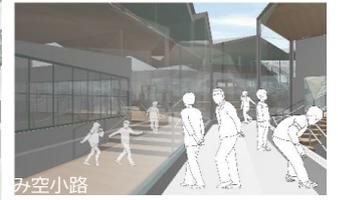
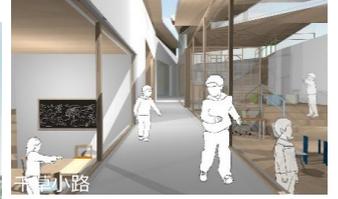
<p>制作者名</p>	<p>宇田川 智子</p>
<p>作品名</p>	<p>点を線に 線を輪に 地域に根差したフリースクールの設計提案</p>

【コンセプト解説】

点を線に 線を輪に



地域に根差したフリースクールの設計提案

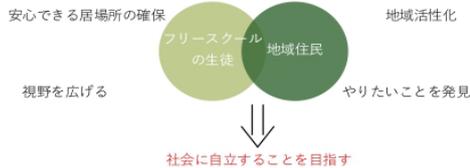


①背景とコンセプト

背景
日本の不登校児童生徒数は年々増加している。文部科学省は不登校児童生徒への支援に対する基本的な考え方として、「学校に登校する」という結果のみを目標にするのではなく、児童生徒が自らの進路を主体的に捉えて、**社会に自立することを旨とする必要がある**と述べている。
また、場合によってはフリースクール等様々な機関を活用し、社会的自立への支援を行うこととしている。

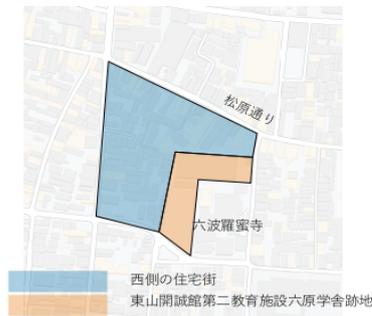
現状のフリースクール
一方で、現在のフリースクールはビルの一角など閉鎖された空間にあることが多い。今後需要が増えることを考慮すると、適切な予算を配した上での建築化が必要であると考えた。

コンセプト
フリースクールに通う子どもたちはカリキュラムで縛ることができない。そこで、自由に地域の人と触れ合い、自立の助けとなる施設を目指す。



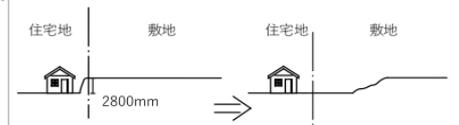
②敷地について

京都市東山区六原学区東山開誠館第二教育施設六原学舎跡地敷地の西側の住宅地の空き家や駐車場の一部を施設の一部とする
敷地である東山開誠館第二教育施設六原学舎は2015年に旧六原小学校の跡地に建てられた施設で、普段は門が施錠されていることが多く、あまり使われていない。
京都市東山区六原学区は京都の中でも特に複雑な路地が多くあり、敷地の西側にも入り組んだ路地がある。



③土地造成

敷地である東山開誠館第二教育施設六原学舎跡地と西側の住宅街は約2800mmの段差がある。この段差を東側の敷地内に移動する。



現状：西側の住宅地と敷地との間に約2800mmの段差がある。
課題：住宅地の東側が約2800mmの壁で圧迫感がある。住宅地と敷地が塀により完全に分離されている。
提案：段差を敷地内の染柳小路の東側に移動する。
メリット：住宅地と敷地との境界線がフラットになり、それぞれの行き来がしやすくなる。一般の人でも利用できる染柳小路と生徒専用の千草小路で約1フロア分の段差をつくることで、生活の目線がずれ、生徒が集中して学ぶことができる。

